
令和 7 年度 第 1 回豊田市産業振興委員会 会議録

【日 時】 令和 7 年 10 月 1 日（水） 13 時 30 分～15 時 00 分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎 5 階 南 51 会議室及びオンライン

【出席者】 <委員> 山田 基成〔名古屋大学名誉教授〕《会長》
三宅 英臣〔豊田商工会議所会頭〕《副会長》
石崎 正樹〔トヨタ自動車株式会社 総務部 渉外室 室長〕
内田 敬久〔愛知工業大学キャリアセンター長 工学部機械工学科教授〕
大橋 宏 〔豊田信用金庫理事長〕
片岡 泰弘〔あいち産業科学技術総合センター所長〕
勝田 剛教〔豊田ミナミ鉄工会会長
豊田汽缶株式会社取締役執行役員社長〕
兼重 明宏〔豊田工業高等専門学校機械工学科教授〕
樹神 康之〔豊田商工会議所第一工業部会部会長
株式会社豊栄商会 代表取締役社長〕
近藤 純子〔近藤工業株式会社代表取締役社長〕
坂本 和子〔法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授〕
杉浦 栄二〔豊田商工会議所第二工業部会部会長
豊田化学工業株式会社代表取締役社長〕
照井 清一〔株式会社アイリンク代表取締役（中小企業診断士）〕
弘中 史子〔中京大学総合政策学部教授〕
渡邊 寿也〔協同組合豊田市鉄工会理事長
大東工業株式会社代表取締役社長〕

（計 15 名）

【欠席者】 なし

【事務局】 脇迫 博文 〔産業部部長〕
成瀬 剛史 〔 “ 副部長〕
川合 晃司 〔 “ 産業振興課長〕
伊地知 毅 〔 “ 次世代産業課長〕
宇佐美 由紀 〔 “ 産業人材活躍課長〕 他

【傍聴人】 2 名

- 【次第】
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 産業振興プラン 2021～2024 の実績と評価（報告）
 - (2) 産業振興プラン 2025-2029 の進捗状況（報告）
 - (3) 令和 7 年度豊田市ものづくり中小企業者実態調査の速報値（報告）
 - 4 その他連絡事項
 - 5 閉会

【議事録（要約）】

1 開会

- ・事務局より開会を宣言

2 あいさつ

○協迫部長

本日は昨年度までの産業振興プランの実績と評価の報告と、今年度からスタートした新しい産業振興プランの進捗状況について報告させていただく。特に新しいプランについて、社会動向の変化が速いため、行政が見落としているような所をご意見いただきたい。不安・課題に思っていることが数点あり、1 点目は米国関税に関して国内生産が保たれるのか、海外に工場が移転していくのか、また、アメリカの景気後退などの不安感である。2 点目は、昨今の人手不足であり、この 4 月から新たな奨励金を新設し、人手不足対策として機械化に向けての設備投資を応援する仕組みを設けた。人手不足対策を進めるために新設した産業人材活躍課では、多様な働き方などについて進めている。3 点目は物価高騰が先々どのような影響を及ぼすのか、10 月 18 日からの賃上げによる動向も気になる。また、人手不足にくわえ、暑さ対策の視点からも、今後、建物を作る際にはかなりの時間と費用がかかることが想定される。

本日、委員の皆様におかれましては各立場から忌憚のないご意見を頂きたい。

3 会長あいさつ

○山田会長

この産業振興員会では先ほど部長が述べられた課題、市内事業者の方々が少しでも前向きに事業を取り組んでいくことができるように皆様の知恵をお借りしたい。本日は、忌憚ないご意見を頂けるとありがたい。

4 議題

<報告事項>

(1) 産業振興プラン 2021～2024 の実績と評価 (報告)

○事務局

産業振興プラン 2021～2024 の実績と評価について報告。

(資料 1 - 1 ～ 4 「産業振興プラン 2021～2024 の実績と評価」により説明)

○山田会長

質問・意見がある方は挙手いただきたい。

○A 委員

ものづくりミライ塾について、目標値未達成の原因は説明いただいたが、事業者数をみると若干ながら減少しているということで、利用される企業の方からこういったことがネックになっているとか、カリキュラムを改善してもらえるといいといった意見はきているか。

○事務局

減少はしてきており、その理由の 1 つは自社の仕事が忙しくて、人を出すことができないという声があるのと、時間外の夜 6 時からミライ塾が開催されているが、時間外だと残業代を出さないといけないということがあり、やめておくだとか、昼の時間にしてもらえないかという声もある。

○A 委員

もしそのあたりの問題や、2 年間の期間がネックになっているだとかそういう意見が企業からでているのであれば、カリキュラム等を改善していただけると、せっかくあれだけの設備・環境があるのだから、有効活用していただきたい。

<報告事項>

(2) 産業振興プラン 2025-2029 の進捗状況 (報告)

○事務局

産業振興プラン 2025-2029 の進捗状況について報告。

(資料 2-1～3 「産業振興プラン 2025-2029 の進捗状況」の説明)

○山田会長

質問・意見がある方は挙手いただきたい。

○A 委員

スタートアップ・ベンチャー支援について、これまでも支援を色々とやられてきたと思うが、そこに参画された企業の中で実際に事業化して、ある程度テイクオフがうまくいったような事例はあるか。そこら辺はモニターされているか。

○事務局

1 件は事業化した事例がある。

○A 委員

1 つ提言として、そういった会社からヒアリングをして、1 年間の事業のなかで 0 から 1 というステップはできていると思うが、その 1 を 10 にしていくというのがかなり大変であり、そこがなかなか支援するものがないと聞いており、今回の事業に参画された企業が次のステージにいくためには何が必要かを聞いて、5 カ年計画なので、うまく必要な情報やノウハウを提供できると、巢立っていくことができるのではないか。

○事務局

新たなプランの中で、資料 2-3 の「アクセラレータープログラム」というものを今年度から開催しているが、伴走支援をしていこうということで実施したものである。

現在募集中で 12 社近くの応募があるが、その半分近くを選考し、伴走支援をしていながらスタートアップが成長していけるように支援をしていきたいと考えている。加えて、今後スタートアップを支援していく中で、その他様々な求められる支援を広げながら事業を進めていきたいと考えている。

○A 委員

ぜひその結果をうまく PR されると、このプログラムに参画すると成功できるということを皆が理解されれば、よりいろんな方が参画されて、いい好循環が生まれていくと思うので、お願いしたい。

○三宅副会長

カーボンニュートラルの施策について、スタートの段階だから市民に発信するという意味とか活性化させるという意味もあって、件数に目標を置いているのはわかるが、

30 年までに 45%減らそうとか、50 年までに 100%減らそうという目標に対して、この産業界としては、40 件ずつやっていくとどれくらい減るのかということが少なからず分からないと、結果 30 年で 46%になるのかならないのか。量との関係含めて非常に難しいが、目安みたいなどれだけ減るかというところに、件数でなくてシフトしてもらおうと、分かり易い。件数だと、中身の大小があるので、考え方としてどうか。

○事務局

カーボンニュートラルの件数ごとに、どれくらい減ったかということは注視しているが、全体的に産業界でどれくらい減ったかについては、相対的に市の環境基本計画等で押さえてはいるが、なかなか目標値までには落とし込めていない。ご指摘のとおり、施策の中で中小企業を中心にやっているため、施策による大きなインパクトは難しいところがあるが、全体的にどうなっているかというところは同じように指標としてとらえていきたいと考えているので、また次回の産業振興委員会でお示しできるようにしていきたい。

○B 委員

変化が激しい分野、変化がでている分野という点で目についたのが、DX アドバイザーの派遣件数の過去 5 年間の進捗が 500%近い達成率ということ。当初想定していたよりも社会ニーズが高まって件数が増えたということで、この状況は今後も続いてくると思われる。今後 5 年間の DX の目標設定、進捗を見てみると、DX プラットフォームの登録者数も既に半期で年度目標を達成し、DX 相談件数も多いということから、社会の変化によって目標のレベル感も変わっていき、その変化からどういう目標設定を作っていくのかということを確認しながら、時々に合わせてものを作っていく必要がある。DX も、デジタルトランスフォーメーションという言葉も、デジタルイゼーション、データのデジタル化、デジタルイゼーション、さらにデジタルトランスフォーメーション、世の中的には AI もものすごく進歩してきているので、DX の中にも AI 的なステップも含めて、どういう企業の方がどこにいて、どこに課題があって、どこを目指そうとしているかを把握できたら、そこに応じた支援、大企業向け、中小企業向け、零細企業向けで特に DX に関してはニーズの高まりもあるので、細分化して丁寧なサポートをしてあげるといい。

○事務局

DX の件数が増えたのは、サイバー攻撃が市内であって、それに伴う対策をとりたいという企業の方が多くて、相談件数が増えた。AI を使った DX の改善を横展開させていただく取組を現在行っているが、環境、時代にあった DX を提供するようにする。

○山田会長

1つ確認だが、設備投資奨励金のような申請件数が予定よりも多くて、予算の支出を伴うようなものというのは、どのように対応するのか。

○事務局

設備投資奨励金は年度内に事業が終わるものと複数年をかけて設備投資をするものがあり、仕組み上は事業が終わった段階で補助金をお支払いするものなので、申請があった時点で翌、翌々年度の予算編成に反映させながら予算が足りるように運用させていただいている。

○山田会長

では基本的には、申請はしたが予算がないから不可となる、という対応にはならないということか。

○事務局

そういう仕組みになっている。

<報告事項>

(3) 令和7年度豊田市ものづくり中小企業者実態調査の速報値（報告）

○事務局

産業振興プラン 2025-2029 の進捗状況について報告。

（資料3「令和7年度豊田市ものづくり中小企業者実態調査の速報値」の説明）

○山田会長

質問・意見がある方は挙手いただきたい。

○C 委員

採用に関する設問も多く、また企業の現状をみると人材の確保、流出がかなり大きな問題となっている。新卒、中途も含めて若手の人材が足りていないと見受けられるが、5～10年たつと施策の中にある新たなプレーヤーの創出というところの人材に育ってくる層である。人材確保等の回答結果に関する分析、今現在どのような施策を行っているか教えていただきたい。

○事務局

少子化に伴う若年層の担い手不足という状況に対して、女性、外国人の方に活躍してもらったり、高齢者の定年延長等となった方たちをプレーヤーとして企業に呼び込んでいくというやり方を模索している。当然企業も若手で新卒を要望されているが、なかなか厳しい状況なので、その対策もしつつ、若年層の就労に関する考え方も変わってきているので、企業の方に共通理解を深めてもらって、色々な方が活躍できる、働ける環境を作っていくということを行っている。

○C 委員

設問 2 3 の不足している人材の中身が、技能人材ということもあるので、そういったところに、ターゲットをある程度絞った施策をやっていくとより効果的ではないか。

○事務局

ヒアリングでも技術系の人材が足りていないと聞いている。進路を選ぶ際に男性が理系を多く選び、女性が理系を選ぶことが少ないという傾向もあるので、そのような点も含めて対策を考えていきたい。

○D 委員

「ものづくり中小企業者実態調査」で、業況の把握について前期からの業績の推移、受注単価、営業利益、会社の単価が上がっているのか下がっているのかを聞いているが、損益の状況を把握されてなくていいのか。近年みたことがないほど、製造業の業況が財務形態上悪化している。半分近くが営業赤字ということになっていて、厳しい状況。あらゆるもの、人件費が上がっている、生産状況も不安定な状況が影響している。プラットフォームや部品の共通化ということで、サプライヤーも勝ち組と負け組が生じている、車両の軽量化にともなって普通鋼の硬度が上がり、ハイテン材とか超ハイテン材など色んな問題があるが、非常に危惧しているのはそれだけ赤字の状況が長く続いているというのは、自分が 30 年以上勤めてきていて見たことがない状況なので、危機感を持っている。調査の中で損益については、入れにくいということなのか。その部分が一番中小企業の実態として重要なポイントなので、教えていただきたい。

○事務局

事業承継についても同様の事が言えるが、損益など経営に関わる重要な情報は、行政に提供いただきにくい状況である。そういった部分については調査ではなく、金融

機関等との連携を考えている。そのため、中小企業等の現状についてぜひ教えていただきたい。

<連絡事項>

○事務局

豊田次世代産業地区整備事業推進チームについて説明。

○三宅副会長

オール豊田でやっていく必要がある。スタートだから企業庁との関係で行政が中心になっているが、トヨタ自動車、商工会議所、地域の区長、市議会議員等を巻き込んでやっていかないといけない。工場建てるだけという話でなく、インフラを整備しないと、町の方まで影響するので、組み立て工場というのは納入車両や従業員も何千人の人も働き、流れがほとんど変わるので、地域と行政と団体に、身近で分かっている人など選抜して色んな人をいれていただきたい。

○事務局

事業推進担当は企画政策部企画課が企業庁、トヨタ自動車との調整を行い、都市整備部都市計画課が周辺の計画について、建設部建設企画課が道路中心とした検討をしている。地域支援として地域活躍部も入りながら地域とも調整を詰めていきたい。

地域のみなさんにご迷惑をかけないように邁進していきたい。

5 閉会

○三宅副会長

中小企業の Tier 2, 3 がすごく厳しいということだが、厳しくないところもたくさんある。価格転嫁にどれだけ援助しているか。Tier 1 が受けて Tier 2 にどのように価格転嫁をしているか、下から上は言いにくい。昔は何が上がっても企業努力で対応していたが、米国関税とか為替との関係もあり、転嫁してもらっている。Tier 1 に価格転嫁しているか聞かないといけない。中小企業儲かっていると給料を高くしたり、儲かっていると給料を下げたり、税金との関係で調整してしまうケースもある。

今期で商工会議所の会頭を降りるため、今回で最後になる。7期やって、豊田市全体のことが分かるようになった。これからも豊田市を盛り上げてほしい。

○山田会長

中小企業の方は、関税や費用の増加、他方では賃金を上げないといけない、人手はなかなか確保できない、悩みが尽きないだろうと思う。そのあたりを踏まえて豊田市でどのような施策ができるのか、変化の速い時代、変えるものは変えていく、追加するものは追加するということを事務局でご検討いただきたい。

○事務局

後日、本日の会議録を確認のため送付するので、ご確認いただきたい。

次回は令和 8 年 2 ～ 3 月頃の開催を予定している。

以上